



城下町の風情ある町並み

## 町並みについて

- ◆熊本市古町地区は加藤清正の手により作られた城下町で、細工町、呉服町、鍛冶屋町など、職名を冠した町名が付けられ、物資流通の動脈である坪井川を利用した町並みは、新町と並ぶ熊本の商業の中心地として賑わいました。
- ◆同地区は、熊本城下の白川と侍屋敷に取り囲まれた独立した町として入口が限定されていました。また、一辺120mの基盤目状に町割りされた区画ごとに寺院が配置され(一町一寺制)、その寺院を中心に町屋が立ち並んでいました。
- ◆現存する江戸期の町名や、近代の明治、大正期の歴史的な建造物に代表される伝統的な地割や町屋が、城下町にふさわしい景観を今に伝えています。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物

### 早川倉庫(旧岡崎酒店酒類醸造場)

- ◆1878年、1880年に酒蔵として建てられた倉庫(旧岡崎酒店酒類醸造場)が、現存しています。骨組みには熊本城の払い下げ木材が用いられたといわれ、1階、2階とも周囲の壁以外は極力柱を少なくする構造で、屋内空間の利用効率を高めた小屋組みに特徴がみられます。
- ◆卸売問屋を経て現在の倉庫業に変遷し、最近では演劇やライブ、熊本県産の新酒祭りなどに活用され、新たな地域の賑わいを生み出しています。



新酒まつりでにぎわう早川倉庫

市街地の拡大とともに繁華街としての地位を他に譲りましたが、問屋街として今も熊本の小売業を支えています。また、日本三大名城の城下町にふさわしい町並みの再生が、地域の人々に支えられながら進められており、伝統ある町並みに新たな息吹を吹き込んでいます。